

客語

大貫診療所院長

榎本
雄介

私の祖母は「孤独死」をした。今から15年前の夏の日。医師になつてまだ3カ月の私に、祖母の異変を伝える電話が入つた。急いで祖母宅に着くと、そこには布団の中で冷たくなり、変わり果てた姿の祖母がいた。



母によると、前日の夜は普段通り電話で話をしたことだつた。ちょうど花火大会の夜。「家から花火がきれいに見えるよ」が最後の言葉になつた。翌日祖母宅を訪ねたところ応答がなく、室内に入つたらすでに息をしていなかつ

は「天知る地知る己知る」「公明正大に生きよ」と言って諫めてくれた。厳しい面はあつたが、それ以上に深く深く愛してくれた。そんな祖母に、「くなる数年前から異変が現れた。1日に何回も電話を掛けてくるようになった。

た。時には激しい言葉も浴びせた。そして自己嫌悪に陥った。
そろそろ独り暮らしは無理なのでは…と話し合っていた矢先、祖母はあっけなくこの世を去ってしまった。医師として祖母の最期を見取りたいと思っていたが、結局

じことである。もしあのま
ま生きていたら、きっと認知症や
介護の問題がより切実になつてい
ただろう。プライドの高かつた祖
母は、私たちに世話を掛ける前に
潔くこの世を去つたのかもしだれな
い、と思えるようになつてきた。

良し」である。今は祖母が「癖のよう」に言つていた「あなたの顔を見ただけで患者が半分病気が治つたような気持ちになるお医者さんを目指しなさい」という言葉を歴史的に見ても、この「良し」は、必ずしも「良し」である。

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

孤独死もまた良し

たのことがだつた。検死の結果、死
亡推定時刻は当口早朝とされた。
私は、完全に「おばあちゃん子」
であつた。「お医者さんは人の役に
立つ素晴らしい職業だよ」と幼い
ころから刷り込まれてしまい、そ
の期待に応えようとして医師にな
つたと言つても過言ではない。野
口英世の伝記を買つてきては「読
書」や「ボケ」と言つた。私は、大好
き物に行く。お風呂に入りたが
らない。散歩に出でては帰り道が分
からない。ある時は大塚台か
ら天工町まで歩いて行つたのを迎
えに行つたこともあつた。当時は
まだ認知症という言葉はなく、「痴
呆」や「ボケ」と言つた。私は、大好

何の役にも立たなかつた。最期の瞬間に誰も立ち会わず、たつた1人で旅立たせてしまった。己を責め、後悔し、そして祖母に謝罪した。「こんなに寂しくみじめな最期はない」と思つた。

その後、たくさんの患者さんの最期に立ち会い、看取りの経験を重ねるうちに、私の気持ちも徐々

壮絶な闘病の末に亡くなる人、「死にならない」ともがきながら亡くなる人、天涯孤独でひとりと生涯を終える人、多くの家族に見守られ大往生を遂げる人。さまざまな最期があるが、大切なのはそこに「その人らしさ」があるかどうかだと思う。その人らしい最期だったかどうかを決めるのは、

に変わってきた。それは、祖母は祖母らしい最期だったかもしれないということである。もしあのまま生きていたら、きっと認知症や介護の問題がより切実になつていただろう。プライドの高かつた祖母は、私たちに世話を掛ける前に潔くこの世を去つたのかもしなれない、と思えるようになつてきた。

祖母は祖母らしい最期を遂げた。その意味では「孤独死もまた良い」である。今は祖母が口癖のように言っていた「あなたの顔を見ただけで患者が半分病気が治つたような気持ちになるお医者さんを目指しなさい」という言葉を噛みしめている。

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部
岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

客論

大貫診療所院長



子供の頃は「お相撲さんになりたい」と思っていた。体格が小さかつたため、行司か呼び出してもいい…と思つくらい相撲が大好きだった。

ある時、朝稽古見学付きの本場所観戦ツアーに参加した。稽古を

数日後、わが家に電話が掛かつた。「潮丸です。写真ありがとうございます」。初めてお相撲さんと口をきいた私は有頂天になりました。彼はみるみる番付を上げ、ついに幕内力士に昇進した。東京に行くたびに朝稽古を見学し、昇進のお祝いを贈るなど交流が続いた。

平成21年の九州場所終了後、東関部屋の力士一行が延岡入りしとん拍子に合宿の準備が整った。

た。稽古場には、早朝から大勢の市民が詰めかけた。地元の女性部とともに作つた東関部屋特製ちゃんこ鍋の振る舞いには長蛇の列。最後には足りなくない、力士用のちゃんこも振る舞いに供出来る始末。でも力士たち喜んでくれた。

今年の東関部屋合宿は11月30日から12月10日まで西階運動公園にて。ちゃんと鍋の振る舞いや餅つてもらつた。ちゃんと鍋の振る舞い、ちびっこ体験入門など楽しいたちが街を闊歩するとなつたまち人き、ちびっこ体験入門など楽しいが寄つて来た。お店の人も、「お企画をたくさん用意している。ぜひ相撲さんが来ると縁起がいい」とひ足を運んでいただきたい。

その力士と写真を撮つた。三段目！」と申し出たところ、「いいよ」と応じてくれた。後に聞いた

6年前に延岡で巡業があり、潮丸も現役の関取として参加していた。食事の席で彼から「師匠の定年に伴い、自分が東関部屋を継承することになった」と聞かされた。

た。稽古場には、早朝から大勢の市民が詰めかけた。地元の女性部とともに作つた東関部屋特製ちゃんこ鍋の振る舞いには長蛇の列。最後には足りなくない、力士用のちゃんこも振る舞いに供出来る始末。でも力士たち喜んでくれた。

なぜお医者さんがお相撲さんを議委員になつて、宮崎県出身力士を横綱に昇進させることかな？

榎本 雄介

相撲好きだからなのだが、最終的には医師が自指すのは「そのまことに暮らす人が元気になること」である。であれば、薬を出して元気になるが、お相撲さんと触れ合つて元気になろうが、目的は同じである。しかも副作用がない！

折しも今延岡では琴恵光関の十両昇進で相撲への関心が高まっている。子供からお年寄りまでが楽しめるのは、やっぱり相撲を置いて他にはない。

相撲でまちを元気に

夜は繁華街に繰り出してもらは、街の経済活性化にも一役買つた。もちろんまげ姿の力士たちが街を闊歩するとなつたまち人き、ちびっこ体験入門など楽しいが寄つて来た。お店の人も、「お企画をたくさん用意している。ぜひ相撲さんが来ると縁起がいい」とひ足を運んでいただきたい。

私の究極の夢は…いつか横綱審議委員になつて、宮崎県出身力士を横綱に昇進させることかな？

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

客論

大貫診療所院長

榎本
雄介

「長生きしても何もいい」とが
ない」「早くお迎えが来てほし
い」。

それが本音なのだろうな…とも思う。そして、その本音を語つても言えるのは有り難い」とだと思ふ。だが、「ちょっと待つて」とも言いたい。

を聞かない」はない。
ためしに、「じゃ、今飲んで

のは自分たちである。

わせなければ死ぬ」とはできない。人に迷惑を掛けずに死ぬ」とはなじできないのである。

であらへと思ふ。
では高齢者が喜んでお世話を
もらえる存在であるためには?

かりにしていては、若手社員が将来に希望を抱けるはずもない。

一迷惑を掛けたくないなどとかなわぬことを願つて人間関係を空疎なものにするより、生きているうちに迷惑を掛け合える関係」をつくることに心を碎いた方が、よっぽど豊かな毎日を過ごせるの

「迷惑を掛けたくない」などとかなわぬことを願つて人間関係を空疎なものにするより、生きていくうちに「迷惑を掛け合える関係」をつくる」とに心を碎いた方が、よつほど豊かな毎日を過ごせるのではありませんか。私は「かわいいお年寄り」になることである。不平不満・愚痴ばかり言う人の周りにはどうして人が集いにくい。いつも二コ二コしたお年寄りであつてほしい。そして、「未来」は残り少なくとも、「過去」がある。「過去」とは「思い出」である。「うちのじいちゃんにはこんなに良くしてもらつた」「あの時の恩返しがし

向かつて「この会社に長く勤めて、年が来てほしい」といふやうなものである。」の金社に長く勤めて、「早く定め上げることではないだろうか。」「周りに迷惑を掛けずに死にたい」ともよく聞く。

ず、定年のその日までを精一杯勤め上げることではないだろうか。」「周りに迷惑を掛けずに死にたい」ともよく聞く。

ではないかと思う。本物の迷惑ばかりだとチト困るが、この世の中に、他人から受けける機会が多い存在といふやうなものである。

向かって「この会社に長く勤めて
何ももい」と「早く定
年が来てほしい」と言い続けてい
るようなものである。

そんな会社に活気があるはずは
ないし、新しく入社しようという
若者が現れるはずもない。しか
も、その会社を築き上げ、福利厚
生を整備し、退職金制度を定めた

す定年のそのまでを精一杯勤め上げることではないだろうか。「周りに迷惑を掛けずに死にたい」ともよく聞く。

しかし、「自分で棺おけに入り、自分で火葬場に行って焼かれた」という人に私はまだ出会ったことがない。

多かれ少なかれ、誰かの手を煩

ではないかと思う。本物の「迷惑」ばかりだとチト困るが…。この世の中に、他人からお世話を受ける機会が多い存在として「赤ちゃん」と「高齢者」を挙げるとしよう。

「もう二度とあの時の恩返しかしてみたい」という気持ちがあれば、周囲の者は自然に優しく接するだろう。今のうちにいい思い出をたくさん作っていただきたい。

こんなことを言う私も、相応の年齢になつたら「年は取りたくないねえ」とか何とか言つていい気もするが…。

「年が来てほしい」と言い続けているようなものである。

「周りに迷惑を掛けずに死にたい」ともよく聞く。

この世の中に、他人からお世話を受ける機会が多い存在として「赤ちゃん」と「高齢者」を挙げるとしよう。

なぜ人は喜んで赤ちゃんの世話をするのか？ それは「かわいいから」そして「未来があるから」

団の者は自然に優しく接するだろう。今のうちにいい思い出をたくさん作っていただきたい。

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介

「諦めなければ夢は必ずかなう」

「夢の実現に向かってたゆまぬ努力を」。ちまたには、このような言葉があふれている。だが、実際に夢を実現させた人など、どれほどいるのだろうか。子供の頃には、必ず「将来の



人は「偉くない」のか?

私は幼い頃から「お医者さんになりたい」と思っていた。その意味では「夢をかなえた人」になるかもしれない。ただ当時は漫画「プロ野球選手」「サッカー選手」「歌手」などの「憧れの職業」を書く同級生が多かつた。しかし、私の同級生からはプロ野球選手も、サッカー選手も、歌手も生まれてはいない。夢を実現させ

たはずである。その姿は多くの人に感動を与える。時には生きる希望を与えることもある。「偉い!」

では、「夢を実現できなかつた

夢はかなわなくてもいい

うにしている。だが、たとえ医者が100人集まつても、病院の柱1本建てる事はできない。病院の床やトイレをきれいに掃除してくれる人がいるからこそ、気持ちよく仕事をすることができる。滞りなく物品を搬送してくれる人がいてこそ業務に支障をきたすことがない。そもそも、病気やケガで

うとしている。だが、たとえ医者が100人集まつても、病院の柱1本建てる事はできない。病院の床やトイレをきれいに掃除してくれる人がいるからこそ、気持ちよく仕事をすることができる。滞りなく物品を搬送してくれる人がいてこそ業務に支障をきたすことがない。そもそも、病気やケガで

す多くの「夢かなえられなかつた人たち」によつて支えられていると言つてもいいと思う。

「オリンピックで金メダル」「大リーグで年俸数億円」という夢をかなえる人はもちろん素晴らしいし偉いと思う。だが、その結果や実績・数字のみが強調され

うとしている。だが、たとえ医者が100人集まつても、病院の柱1本建てる事はできない。病院の床やトイレをきれいに掃除してくれる人がいるからこそ、気持ちよく仕事をすることができる。滞りなく物品を搬送してくれる人がいてこそ業務に支障をきたすことがない。そもそも、病気やケガで

す多くの「夢かなえられなかつた人たち」によつて支えられていると言つてもいいと思う。

業医になり、建物を建てる事から始まり、人を雇い、給与を支払う。税金を納め、コストを考えて仕入れをし…など、ようやく社会の仕組みや世の中の流れに目が向くようになつた。そしてそこに

は、黙々と働く多くの人がいることに気が付いた。それらすべての人がいてこそ私は医師として生きられるのであるし、社会の一員としての役割を果たすことができる。医師だけが偉いのではない。

夢をかなえた人はもちろん素晴らしいが、夢かなわざとも一人の人間として懸命に生きている人たちの存在を忘れてはいけない。そ

う生きたかということがより大切なのではないかと思う。

そのような人の中には「夢をかなえられなかつた人」が大勢いる。私は、開業して初めて「社会人になった」と感じた。勤務医時代だ。

みんな「偉い!」のである。

院は成り立たない。そしてその患者さんも家庭や社会の中ではそれぞの役割を担つてゐるはずである。

実現させた結果だけが重要なではなく、実現に向けて努力した過程において学んだこと、挫折について得られたもの、そしてその後どう生きたかということがより大切なのではないかと思う。

天才外科医に憧れていたから、完全には夢をかなえていない。この世の中は、自らの今になつた」と感じた。勤務医時代

うとしている。だが、たとえ医者が100人集まつても、病院の柱1本建てる事はできない。病院の床やトイレをきれいに掃除してくれる人がいるからこそ、気持ちよく仕事をすることができる。滞りなく物品を搬送してくれる人がいてこそ業務に支障をきたすことがない。そもそも、病気やケガで

うとしている。だが、たとえ医者が100人集まつても、病院の柱1本建てる事はできない。病院の床やトイレをきれいに掃除してくれる人がいるからこそ、気持ちよく仕事をすることができる。滞りなく物品を搬送してくれる人がいてこそ業務に支障をきたすことがない。そもそも、病気やケガで

うとしている。だが、たとえ医者が100人集まつても、病院の柱1本建てる事はできない。病院の床やトイレをきれいに掃除してくれる人がいるからこそ、気持ちよく仕事をすることができる。滞りなく物品を搬送してくれる人がいてこそ業務に支障をきたすことがない。そもそも、病気やケガで

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介 紹介

今年のインフルエンザの流行はすさまじかった。

当院でも、多い時は午前中だけで100名を超す患者さんが来院された日もあった。昼食も満足に摂らず対応したが、それでもどうしても待ち時間は長くなり、2~



レ」に例えられると思う。

全ての利用者（患者）は、ひとつ便器（医師）を使うしかない。当然行列は長く伸びる」とになる。短時間で用を足す人もいれば、長時間居座る人もいる。誰が短くて誰が長居するのか、並んでいる段階では互いにわからない。時には「漏れそう！」などと言つ

ることもある（すなわち「往診」）。その間、公衆トイレは「便器不在（医師不在）」となり、行列はストップすることになる。例え予約をしていても、なかなか予約通りにいかない所以である。

便器の数（医師数）を増やせば解決するだろうが、そう簡単には増やせない。

を足す（診察が効率よく終わるように協力する）努力が必要である。すなわち、自分の症状や質問を伺う時間を確保しようとすれば、どうしても待ち時間は長くなる。であれば患者さんも、効率よく診察ができ、少しでも待ち時間たり、複数の医療機関に掛かっている場合には「お薬手帳」を必ず持参してほしい。

受診の際は、脱ぎ着しやすい格好でおいでいただきとも重要な

3時間以上お待たせする結果となつた。

パンツを脱ぐのに時間が掛かる人もいるし、トイレの使い方に戸惑う人（診察に介助が必要な人）もいる。

「三時間待ちの三分診療」と揶揄されるほど、病院の待ち時間は長い。なぜだろうか？

では、どうすれば待ち時間を見て、トイレに駆け込む人もいる。でも、できるだけ公衆トイレを使わず、自宅のトイレで済ませる」とある。これは、「すぐ病院」ではなく、自己の体調管理や予防に力を入れ、「病院に行かな

うる」とある。これまでの最高記録は「上7枚、下5枚」。思わず「まるで十二単ですね！」と言ってしまう。健康診断なのにボディースーツを着込んで来る方もいる。

ある。医者も患者も、ともに心を通じ合せ、気持ち良く診察を終える関係でありたいものである。

待ち時間が増えてうれしい

て順番を抜かして（救急搬送され

らす」とができるだろうか？

りはあんなに重ね着をするのかと思ふ。これまでの最高記録は「上

うる」という意外な言葉が返ってきた。理由を尋ねると「待ち時間が長くなるということは、それだけ先生の患者さんが増えてきた

7枚、下5枚」。思わず「まるで十二単ですね！」と言ってしまつた。健康診断なのにボディースーツを着込んで来る方もいる。

まさに医者冥利に尽くる言葉である。医者も患者も、ともに心を通じ合せ、気持ち良く診察を終える関係でありたいものである。

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介

地域の医師不足問題が深刻である。延岡市でも、医師の絶対数不足に加え、診療科の偏在や開業医の高齢化（平均年齢は60歳を超えている）、医療機関の後継者不足に頭を悩ませている。



なくなるのかを考えてみると、「逃げた嫁さん」として考えると分かりやすいと思う。家事が大変（過重労働）、生活費が少ない（給与への不満）、自分の時間がない（長い拘束時間）などが重なると、逃げ出したくなる気持ちが募ってくるだろう。しかし、決定的な決め手は「愛情」である。

医師不足対策は「愛」だ

「愛されていない」と感じるとほど寂しいことはないだろう。業界的には「売り手市場」なので、逃げ出しても次の嫁入り先（就職先）は容易に見つけることができる。

翌日はそのまま延岡市内を観光。スキューバダイビングやボルダリング、カヌー遊びなどを一緒に楽しむ。出会うと親密度が増しそう。出会いの聖地・愛宕山は必ず訪ねたいところ。

世は「婚活」が花盛りである。そうやって一組でも二組でもカップルが成立すれば、将来医師になつてから延岡で働いてくれる可能性がある。

医師不足対策の鍵は「愛」だ！

入りして（医師になって）いる。それは、「モチベーションを維持する最も大きな力は、結婚相手（住民）か

の医療機関を見学したり、地域医療の現状について実際に学ぶ。夜

では、医学生を対象とした「婚活事業」はできないだろうか？

身の私が延岡市で開業していることが何よりの証拠である。妻が延岡市出身でなければ考えてもいたことである。

子育てをする上においても、妻

の実家が近くにあることのメリットは大きい。地方で働くことを

と、たいてい奥様の抵抗がネック

になるので、そのハードルがないことは重要である。

私の印象だが、医師は子だくさ

んの家庭が多い（ちなみに我が家

は4人）ので、少子化対策にも効果があるものと思われる。

「地域を愛すること」はもちろ

ん大切であるが、「愛する人の地域に

住む」ことの良さをもつとアピ

ルしていいのではないかと思う。

繰り返して言う。

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介



長女が生まれたとき、1ヶ月間の「育児休業」を取得した。当時は大学病院で外科医として勤務していた。文字通り、朝から晩まで働き詰め。休日も必ず病棟に行つて受け持ち患者を診て回り、週末はほとんど毎週のように

長女が生まれたとき、1ヶ月間の「育児休業」を取得した。当時は大学病院で外科医として勤務していた。文字通り、朝から晩まで働き詰め。休日も必ず病棟に行つて受け持ち患者を診て回り、週末はほとんど毎週のように

取るなどまさに前代未聞。当時の上司に育休取得を申し出た際の「そんな法律があるのかね」という言葉が今も忘れられない。常々その上司は「自分は毎日病院に泊まり込んでいた。子供のオムツも替えたことがない」と豪語していたから無理はないが…。

何とか上司の許可を得、同僚医と一緒に子供を持つ友人から「こちら側の世界へようこそ」とう言葉が今も忘れられない。常々その上司は「自分は毎日病院に泊まり込んでいた。子供のオムツも替えたことがない」と豪語していたから無理はないが…。

育休中は、オムツ替えはもちろん、ミルクやり・入浴・着替え・洗濯物干しなど一通りのことは全然をしていた。もちろんきつかったが、他の医師も同じような毎日を過ごしており、それが当たり前だと思っていた。

育休中の勤務調整をお願いした。意外にも「僕もやりたかったよ」「頑張って」と応援してくれる声が多くうれしかった。そもそも私が外科を選んだ理由は「一番忙しいから」。人生の全てを仕事にささげるつもりでいた子供が生まれ、ふと「育休取れないかな?」と思いついた。大学病院勤務の男性医師が育休

を取るなどまさに前代未聞。当時の上司に育休取得を申し出た際の「そんな法律があるのかね」という言葉が今も忘れられない。常々その上司は「自分は毎日病院に泊まり込んでいた。子供のオムツも替えたことがない」と豪語していたから無理はないが…。

育休中は、オムツ替えはもちろ

「育休」で人生が変わる

師に育休中の勤務調整をお願いした。意外にも「僕もやりたかったよ」「頑張って」と応援してくれる声が多くうれしかった。そもそも私が外科を選んだ理由は「一番忙しいから」。人生の全てを仕事にささげるつもりでいた子供が生まれ、ふと「育休取れないかな?」と思いついた。大学病院勤務の男性医師が育休

をするなどまさに前代未聞。当時の上司に育休取得を申し出た際の「そんな法律があるのかね」という言葉が今も忘れられない。常々その上司は「自分は毎日病院に泊まり込んでいた。子供のオムツも替えたことがない」と豪語していたから無理はないが…。

育休中は、オムツ替えはもちろ

は大きく変わった。先に子供を持っていた友人から「こちら側の世界へようこそ」とう言葉が今も忘れられない。常々その上司は「自分は毎日病院に泊まり込んでいた。子供のオムツも替えたことがない」と豪語していたから無理はないが…。

育休中は、オムツ替えはもちろ

は大きく変わった。先に子供を持っていた友人から「こちら側の世界へようこそ」とう言葉が今も忘れられない。常々その上司は「自分は毎日病院に泊まり込んでいた。子供のオムツも替えたことがない」と豪語していたから無理はないが…。

育休中は、オムツ替えはもちろ

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介

医師になりたてのころ、「先生」と呼ばれるのがとても恥ずかしかった。

大学を卒業し、医師国家試験に合格したとは言つても実践経験はほぼ皆無。毎日が冷や汗の連続であるのに、患者さんや看護師さん

ちろんないが、近くで「先生」と聞こえると反射的に返事をしてしまっている自分がいる。時には自分が振り返つてしまふ」とすらあります。

「先生」＝「自分」という感覚が刷り込まれてしまっているようだ。

肩書なしで勝負ができるか

は、ほとんどが「人生の大先輩」…。それが「お医者さん」と分であるが、そのような方も私のような若造に「先生」と言って頭を下さる。大先生から「先生」と呼ばれる。大先生

最初は「はい！」と返事をするのにも勇気がいるほどだった。それが今はほどだ。

「先生」と呼びかけないやつには返事をしない…といふことはも

に対しても勝負できる男でありたいと願っている。

もし私が医師でなかつたとしても付き合つてくれる人はどれほどいるのだろうか…と。

「医師」と「私」はもはや分けることはできない。だからこそ診

休日などは、私はほとんどラフな格好で過ごしている。一見すると「若いお兄ちゃん」といった風情なので、医師と気づく人は少ない。

私自身に、一人の人間としての魅力はどれほど備わっているのだ。

（最近は「客論」執筆の影響もあり少し顔が売れてしまったが

「先生」と呼ばれて氣を悪くする人はいないし、相手の名前を忘れた時も、取りあえず「先生」と

思つてはいる。医師の論理に染まりきつてしまわないように…。

小中学校の同級生などに会うと、「おう、榎本！」と言つて頭をたき、肩を組んでくる。まさに居心地のいい空間である。いつまでもそのような付き合い方のできる人間でありたいと思う。

もちろん、より丁寧に対応して

呼んでおけば間違ひがないので、

取引先の業者の方も、私よりもくれるなど、いい方向へ態度が変化年上の方でも、恭しく頭を下されることが多いのだが、「医師」という肩書の持つを感じる瞬間戒したいと思う。

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。



かしかつた。

大学を卒業し、医師国家試験に

合格したとは言つても実践経験は

ほぼ皆無。毎日が冷や汗の連続で

あるのに、患者さんや看護師さん

が振り返つてしまふ」とすらあ

ります。

「先生」＝「自分」という感覚が刷

り込まれてしまっているようだ。

医師として相対する患者さん

と「若いお兄ちゃん」といった風

情なので、医師と気づく人は少な

い（最近は「客論」執筆の影響も

あり少し顔が売れてしまったが

ろうか…と。

「先生」と呼ばれて氣を悪くす

る人はいないし、相手の名前を忘

れた時も、取りあえず「先生」と

思つてはいる。医師の論理に染まり

きつてしまわないように…。

小中学校の同級生などに会う

と、「おう、榎本！」と言つて頭

をたき、肩を組んでくる。まこ

とに居心地のいい空間である。い

つまでもそのような付き合い方の

できる人間でありたいと思う。

最近、「医師にしておくのはも

つたいない」と言われることが多

くなってきた。私にとつては最大

級の褒め言葉だとありがたく受け

止めている。

しかしそれは、私個人に対して

である。

という肩書なしで、一人の人間と

ではなく、私の持つ「医師免許」

時々思う。

客語

大貫診療所院長

榎本
雄介

延岡で開業して6年が経つた。
子供の頃から何度も遊びには訪
れていたが、実際に住んでみて驚
いた。

ものすごく住み心地がいいのである。

と眺めながら天然の鮎を食べる」とができる場所など、日本中探しでもここだけだろう。島野浦で食べた魚のうまさも忘れられない。

新鮮な野菜も豊富だし（多くの方が自分で野菜を作っている）、延岡の人は本当にいいものばかりを食べているな…と思つた。さらに何と言つても、市民の皆

り、線香を手向けて踊る様子を見て、連绵と続く地域の皆さんのがいに触れた気がした。

こんなに素晴らしいまちなのに、地元の皆さんは「何もない所で…」などと言つ。

千人殺しの 石垣に 牧水親しむ 鐘の音
大崩 行縢 愛宕山
島浦のぞむ うみウララ
五ヶ瀬 北川 祝子川
清流育む 若鮎に
掛けたるやなは 天下一
ばんば 神楽に 薪能
歴史をつなぐ 市民力

世界に羽ばたく
陸上王国復活の
旗なびかせる のぼりざる
高速道路の開通に
観光客も倍増の
スポーツランド アウトドア
一年納めの 師走には
東関部屋合宿よ
延びゆくまちに これからも
益々幸せ来ますよう
ここにお祈りヨーホホイ
アーラー申しますヨー

A portrait of a young man with short, dark hair, smiling. He is wearing a light blue button-down shirt. The portrait is centered within a light blue circular frame.

延岡は「宝のまち」

さんのお柄がいい。道を歩けば気さくに声を掛けて下さるし、診療て「相撲甚句」を自作してみた。題して「延岡名物」

今山登れば お大師さん
もてなす心は お接待

どれも一級品。全国的にも注目されるアウトドア天国だと「う」と

を、地元の人すらまだよく知らない。その分、手つかずの自然がたくさん残っている。

そして食べ物がうまい。特に魚介類は絶品である。旭化成の煙突

さんの人柄がいい。道を歩けば気
さくに声を掛けて下さるし、診療
所への差し入れも山のようにないく。
地域のつながりもまだまだ残つ
ている。延岡に来るまでは盆踊り
など一度もしたことがなかった
が、こちらでは大人も子供も皆が
ぱんぱを踊ることができる。その
地区で初盆を迎える方の遺影を飾
て、「相撲甚句」を自作してみた。
題して「延岡名物」
(アードスコイ ドスコイ)
ヘルアーエー
延岡名物を 甚句に詠めばヨー
(アードスコイ ドスコイ)
アーニー
内藤殿様 ジ自慢の
七万石なる 城下町

今山登れば お大師さん
もてなす心は 楽接待
チキン南蛮 メヒカリに
ウルメイワシに 伊勢海老に
破れ饅頭 次郎柿
美味なる食材 豊かにて
地酒 地ビール 地焼酎
三蔵飲んで 酔ちくれて
雲突く紅白煙突は

(アーチー・ドスコイ・ドスコイ) さて、延岡が1年で最も熱く燃える「まつりのべおか」が7月26日に開催される。私も実行委員として太鼓を叩いたり花火に当火したりする予定。ぜひ多くの方に来ていただき、延岡の魅力を堪能してもらいたい。

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介

「地域医療はまちづくりの一環である」。

私が初めてこの言葉を聞いたのは、大学5年生の地域医療実習の時。当時西郷村立病院長だった金丸吉昌先生のこの一言が、私の医師として進むべき道を指し示して

感じることができた。

外科医となつたが、地域医療や

まちづくりへの想いが大きくなり、「これからはまちを手術する」などと大きないと書いて6年前に妻の出身地である延岡市大貫町で開業した。

金丸先生の言葉を理念に掲げ、

開業の日のインタビューでは「将

来は診療所の駐車場で祭りや朝市を開催できるほど地域に溶け込む診療所を目指したい」と答えた。

地域の益踊りや住民集会には出来るだけ顔を出し、商工会議所や観光協会にも加入して地域の行事やイベントに積極的に関わった。

学生時代は、大学のある清武町中野神社の神輿復活に携わった。地元の和太鼓チーム「若武会」に入り、地域の祭りや高齢者施設の慰問にも回った。地域の皆様と触れ合い、医療に対する想いを肌で

中心として「診療所朝市（先日開催100回を達成）」を始めた

金丸先生の言葉を理念に掲げ、

診療所移転の際には患者さん達にも引っ越しを手伝つてもらい、上棟式では差し入れの餅米180

月分の餅をまいた。

毎月1回「百田居酒屋」として診療所の2階を開放し、どなたでも気軽に立ち寄つて酒を酌み交わしても気軽に立ち寄つて酒を酌み交わしてもらい、医師ではなく一人の人間としての触れ合いを持つ取り組みももう5年も続いている。

幸い、地元には住民同士のつながりが強く残つており、女性部を何だろうか?

それは、「地域に暮らす全ての人々が元気に過ごし、幸せになること」である。

では「まちづくり」は一体何のため?

これも「そのまちに暮らす全ての人々が元気で幸せになるためではないだろうか。であれば、地域医療もまちづくり

と見えると思う。

「地産地消」という言葉がある。私はこれを「地産地生」と読み換えたい。「地域で産まれ、その地域で生きていく」という意味である。さらにその先には「地産地死」がある。「地域で産まれ、その地域で人生を終える」ということだ。

そのまちに生まれ、暮らし、老いて、病氣になって人生を閉じる。そこに人生の喜びや悲しみ、苦しみや楽しみがあり、それら全てを担つているに過ぎない。

ただ、地元の人も住まない、愛さないような地域に医師が来るはさはない。一方、医療が充実しないと住民も安心して住み続けられができない…。その人の想いや生き様が次の世代に受け継がれていく…。そんな地域を目指すのが「地域医療はまちづくり」という言葉の真意ではないかと思う。

「地域医療」の目指すものとは「まちづくり」は車の両輪であるそのものである。



地域医療はまちづくり

まちづくりへの想いが大きくなり、「これからはまちを手術する」

「地域に暮らす全ての人々が元気に過ごし、幸せになること」である。

では「まちづくり」は一体何のため?

これも「そのまちに暮らす全ての人々が元気で幸せになるためではないだろうか。であれば、地域医療もまちづくり

「地域医療」の目指すものとは

「地域医療」とは、まちづくり

と車の両輪であるそのものである。

客論

大貫診療所院長

榎本 雄介

「医師は何のために存在しているのか?」――。学生時代からずっとこのことにについて考え続けてきた。

一般的には、「病気やケガを治し、患者さんの命を救うこと」と言われる。



今までたつても患者の死は「医療の敗北」になってしまう。

だからと言って「不老不死」を

目指すのが良いとも思えない。

医師の存在意義については、違う価値観が必要なのだと思う。

医師になつて、もはや助かる見込みもないと思われる方に濃厚な医療を行つたりした。寝たきりで、

えのもと・ゆうすけ 1974年、宮崎市生まれ。大相撲東関部屋延岡合宿実行委員長、延岡観光協会理事。医師。延岡市在住。

うことではないかと思うようになつた。

では、「幸せ」とはいったい何だろうか?

ある人は「周りの人とつながっていると感じる」と言った。

別のある人は「明日の生活に希望が持てる」と言った。

さらに別の人には「いろいろあつ

世の中の代表的な「苦」であるが、「生きるのがきつい」「年は取りたくない」「病気になりたくない」「死にたくない」など、否

定の連續で人生を送つても、幸せ

境にいても、現状を受け入れず、過すとも、一夜の夢の心地こそせ

不満を抱いてばかりいては、いつめ(現代語:人生に満足せずに、いつまでも生きていきたいと思うな

ら、たとえ千年生きてても、一夜の夢のように短いと思うだろう)

病気になつたとしても、あるいは亡くなつてしまつたとしても、あるいは自分が自分の運命を受け入れ、

「幸せな人生だった」と思えるよ

うに、医師としてできること、医

師にしか出来ないことは何か。

それは、医師がその人を受け入

れ、寄り添い、「ともに在る」姿

勢を示し、安心感を与えることで

はないかと思う。

患者さんが「その人らしい」人生

を送り、幸せを感じてもらえるよ

うに、私自身も幸せを感じながら、

さらに精進を重ねていきたい。

さて、医師が目指すのは、単

に「命を救う」ということではない。されることはないし、それではい

く、「その人を幸せにする」とい

うございました。

1年間お読みいただき、ありがとうございました。

幸せな医療を求めて

意思表示もできない高齢の患者さん

に胃瘻を開ける処置もした。

自分と同じ立場ならこんな医療は受けたくない」と思い、「自

分が受けたくない医療を提供して

いる自分」という存在に悩んだ。

だが、世の中に「死ない人」はない。治療により命が延びる人はいるだろうが、その人も最終的にはいつか死くなる。

「命を救う」ことのみを目指し

「自分が同じ立場ならこんな医療は受けたくない」と思つた。

「幸運」は、100人いれば百通りの答えが返ってくるだろう。

通りの答えが返ってくるだろう。

この言葉は、「生も死も思い通

りにならない」ということを言つ

ているのだと思う。それら全てを

受け入れることが、本当に幸せにな

れる唯一の道ではないかと思う。

受け入れることが、本当に幸せにな

れる唯一の道ではないかと思う。

そこで、医師が目指すのは、単

に「命を救う」ということではない。されることはないし、それではい

く、「その人を幸せにする」とい

うございました。

1年間お読みいただき、ありがとうございました。

飽かず、惜しそ思はば、千年を